

ともだち



人と人との出会いを大切に
笑顔の輪を広げましょう

たかさき し こくさいこうりゅうきょうかいかいほうだい とう
高崎市国際交流協会会報第120号

2025.2

◆トピックス(2024年11月～12月)

■秋の日本語教室

9月2日から12月2日まで秋の日本語教室が開催され、40人の支援者が88人の学習者の学びを手伝いました。学習者はそれぞれの目標に向かって、支援者の助けを得ながら熱心に学習に取り組みました。中央公民館火曜日コースでは生活や教育などのテーマについて自由に話合う「サロングループ」が始まり、学習者のニーズにあった情報提供が行われました。「今回サロングループに参加できてよかった」と最終日に涙ぐむ学習者もいました。(コミュニケーション支援部会)

■国籍別学習者数(延べ人数)

中国	16	カメルーン	3	カナダ	1
フィリピン	13	ギニア	3	日本	1
ベトナム	8	パキスタン	3	メキシコ	1
台湾	7	バングラデシュ	2	マレーシア	1
アメリカ	6	韓国	2	イラン	1
スリランカ	5	シンガポール	2	ペルー	1
ネパール	4	オーストラリア	2	インド	1
インドネシア	3	タイ	1	イギリス	1
合計24ヶ国88人(対面78人、オンライン10人)					



■日本語支援者ステップアップ研修

日本語を母語としない人たちの日本語学習を手伝うボランティアを対象とした研修が、11月10日、24日、12月10日の計3回行われました。

11月10日は15人が参加し、ボランティア同士の交流会が行われました。経験の浅いボランティアからの質問に、ベテランのボランティアが答えるという形式での意見交換や、お勧めの教材などの紹介もありました。参加者からは大変参考になったという声が届きました。



11月24日は群馬県立女子大学の野口美美先生による「テキストの使い方」についての講義があり18人が参加しました。講義では野口先生による

イタリア語の模擬授業もありました。「外国語で授業を受けるという体験をとおして、あらためて学習者の立場に立ち、日頃の学習支援を振り返ることができた」という感想が参加者から多数寄せられました。

12月1日は15人の参加者が群馬大学の松田デレク先生による「多文化を背景にもつ人々の日本語教育を考える」をテーマにした講義を受けまし



た。松田先生自身が外国にルーツがあることから、日本語を外国語として習得した経験や外国にルーツのある子どもの日本語教育などについての話をしました。参加者からは「アイデンティティやルーツ・ルートの話が面白かった」「多文化共生社会の現状が分かった」などの感想が寄せられ、この講義をきっかけに子どもの日本語教育にも関心をもった参加者もいました。

(コミュニケーション支援部会)

■写経体験と茶話会

12月7日、観音山で写経体験(慈眼寺)と茶話会(一路堂)が開催されました。外国人4人(アメリカ、中国)と日本人6人、合計10人が参加しました。初めて写経に挑戦するという参加者も多く、一文字一文字丁寧に、集中して取り組んでいました。茶話会では、和菓子を楽しみながら、ゲームを楽しみ、参加者同士が交流を深めました。(事業部会)



■COOL TAKASAKI 発信事業～日本家庭料理教室～



12月8日、中央公民館で日本家庭料理教室が開かれました。中国、アメリカ、ペルー出身の参加者12人は、NoRiKo クッキングスタジオ(新町)の吉田則子さんを講師に、鮭とキノコのホイル焼き、豚汁、ご飯、小麦饅頭の4品を作りました。「おいしかった」「また料理教室に参加したい」などの感想が寄せられました。また、参加者同士、共通の日本語で楽しそうに話す様子も見られ、新しい友達づくりの場にもなっていました。(事務局)

■外国人のための法律相談

12月8日、中央公民館で、外国人のための法律相談が群馬県観光物産国際協会との共催で行われました。5か国10人の外国人が通訳者とともに、弁護士、行政書士、社会保険労務士に相談しました。主な相談内容は、契約、日本国籍取得、離婚・親権でした。(事務局)

■子ども日本語学習支援・参加者交流会

協会は、日本語を母語としない6才から18才までの子どもの日本語学習支援をボランティアの協力のもと行っており、現在、ネパール、フィリピン、中国、ベトナム、モンゴル出身の子ども17人が、主に週末、市内の公民館等で日本語や教科の学習をしています。昨年12月28日には、いつも別々に学習している子どもとボランティアが中央公民館に一堂に会し「お楽しみ会」を開きました。子ども達は、ボランティアが準備したひらがなビンゴやチーム対抗の紙コップ3目並べゲームなどで盛り上がりました。保護者らは、給食がおいしいことや、卒業式の服装や進学のことなど、話に花を咲かせていました。企画したボランティアからは「信頼できる大人がいる安心感」は子ども達にとって大切なことだと改めて感じた。交流会をやってよかった」と感想が寄せられました。



(子ども日本語学習支援ボランティアグループ)

◆お知らせ(2025年3月)

■COOL TAKASAKI 発信事業～いけばな体験～

●日時=3月9日(日曜日)午前10時～11時30分 ●場所=高崎シティギャラリー(高松町) ●対象=在住外国人(高崎市在住者優先) ●定員=5人(先着) ●内容=高崎市華道協会講師の指導を受けながら、いけばな1作品を作る ●費用=1,000円(花代込み) ●申込=2月7日(金曜日)までに名前、国籍、電話番号をメールで事務局へ ※作品は体験終了後から3月10日(月曜日)午後4時まで市民いけばな展に展示されますので、同日午後4時から6時の間に作品を取りに来てください

■国際理解ワークショップ「世界を知って、もっと広がる自分」

●日時=3月1日(土曜日)午前10時～11時40分 ●場所=中央公民館(末広町) ●対象=市内の小学4年生～中学生とその保護者 ●講師=笹塚麻里菜さん(JICA群馬デスク)、高橋アレックスさん(高崎市国際交流員) ●内容=講師が自身の国際キャリアや日本と他国の文化比較について話す。SDGsゲームをする ●定員=先着15組(30人程度) ●費用=無料 ●申込=2月24日(月曜日・祝日)までに件名に「国際理解ワークショップ」、本文に参加者の名前(ふりがな)、続柄、学校名、学年、電話番号を書いてメールで事務局まで

『赤ペン』 ブラウン・タイラー（アメリカ）

私は日本の中学校で英語を教える手伝いをしていますが、英語の授業で使われているあるものについて、あまり好きではないと気づきました。それは「赤ペン」です。多くの人が学校で赤ペンが何に使われているかを知っていると思います。それは、正しいか間違っているかを示すために使われています。

しかし、ALT（外国語指導助手）として、私は正しいか間違っているかということに気にしていません。私が大切にしているのは、生徒が「挑戦した」ということです。答えようと挑戦したこと、話そうと挑戦したこと、聞こうと挑戦したこと、参加しようと挑戦したこと、そしてお互いに助け合って外国語を学ぼうと挑戦したことです。

中には挑戦したくない生徒もいるかもしれません。正直に言うと、私もこのスピーチに挑戦したくありませんでした。今、私はとても自信がなく、人前に立って日本語を話すのは意味が無いと思っていました。でも、私はこうしてここにいます。だから挑戦してみます。

私は今、挑戦しようとみんなの前に立っています。自分の日本語を上達させ、学んだことを使おうと挑戦し

ています。たとえ間違いだらけでも、理解してもらえるよう挑戦しています。結局のところ、正しいか間違っているかは気にしなくてもいいはずです。でも、私は気にしています。なぜなら、目の前に「赤ペン」があるからです。私は、私の間違いや自分の発音がどれだけ良いか、文法が正しく使われているかで判断されているのだと感じています。

もし、私が日本で伝えたいことがあるとすれば、それは「挑戦している生徒たち」に向けてのメッセージです。私も、あなたの先生たちも、「赤ペン」ではありません。そして、私は、あなたの間違いであなたを判断しません。私は、あなたが挑戦したことをすごいと思います。

（2023年国際交流の集い日本語スピーチ大会より）



タイラーさんのコメント

アメリカのミネソタ州から来ました。日本で英語指導助手として働いて3年になります。暇なときはビデオゲームやハイキングを楽しんでいます。

～広報宣伝部会メンバーが読んで質問しました～

Q1. 生徒はチャレンジングですか？

A. ほとんどの生徒はチャレンジングで、良い刺激を与えてくれます。最近何人かの生徒たちは英語スピーチコンテストに参加しました。彼らがスピーチを作成し、練習し、発表することに費やした創造力、心、努力に感激して涙が出そうになります。チャレンジしない生徒のために、楽しく英語を学び、もう少し練習してもらうための方法を考えるのは私自身にとってのチャレンジです。

Q2. 挑戦する生徒になってもらうために、どんな工夫をしていますか？

A. まずは温かく歓迎し受け入れる環境を作っています。もし威圧的、閉鎖的で間違いを認めず理解もしない人を生徒が見たら、そもそもチャレンジしたくないと思います。また、もし私が生徒の前で日本語を話す機会があったら、間違えてもがっかりしたり、悲しんだりしないようにしています。その代わりに、その間違いを笑い飛ばします。例えば、生徒に英語で「どんな味のラーメンが好きですか？」と聞かれた時、私は「とんかつラーメンが好き」と答えました。生徒と先生は笑いましたが、私は何故笑っているのかわかりませんでした。彼らは「とんこつだよ」と教えてくれました。そして私も笑いました。このような些細な間違いを笑う事は重要です。他の言語など何か難しいことを学ぶ時、間違いはつきものです。間違えた時でも努力を認めることも重要です。だから私はクラスで使う英語パスポートを作りました。生徒が質問に答えるなど自発的に何かした時、例えそれが間違っていたとしても、生徒は英語パスポートにスタンプをもらい、たくさんのスタンプを集めたら、私のサインとちょっとしたコメントがもらえます。

Q3. 赤ペンをどのように使っていますか？

A. 採点の際は赤ペンを使うよう言われていますが、素敵なコメントや会話のきっかけを残すようにしています。そうすることで生徒は赤ペンがいつも悪い事を意味しているわけではないとわかります。ただし、「赤ペン」はいつも実際の赤ペンとは限りません。それは答えが間違っていると口頭で言う事でもあります。だから、生徒が間違いを恐れないようにするため、努力の跡がわかる英語のパスポートを使用しています。

Q4. ミネソタはどこなところですか？

A. もしあなたが自然愛好家なら、ミネソタには美しい自然があります。グースバリーパークはウォーキング、ハイキング、サイクリングトレイルがたくさんある美しい場所です。スプリットロック灯台は、世界で2番目に大きいスベリオール湖の湖岸に建ち、素晴らしい眺望です。ミネソタには1万を超える湖があり、釣りやウォータースポーツがとても盛んです。また、「モールオブアメリカ」という全米最大のモールがあります。モールの中に遊園地があるほど大きいです。そして最後に1つ！スヌーピーを知っていますか？スヌーピーはミネソタ出身で、ピーナッツのキャラクターの銅像があちこちで見られます。是非ミネソタを訪ねてみてください！冬は-20℃になるので、春、夏、秋に行くのがお勧めです！

Q5. ハイキングにおすすめの場所を教えてください

A. 日本でいちばんのお気に入りのハイキングは東吾妻の岩櫃山です。すごく疲れる難しいコースではないですが、少し怖くて危険な所もあります。もう少しリラックスできる所であれば、碓氷峠の森公園からめがね橋まで歩くコースはとても素敵なお勧めです。

